

2021年度第2回札幌競馬特別レース名解説

<第1日>

○ コスモス賞

コスモス (Cosmos) は、キク科の春蒔き一年草。メキシコを主とした熱帯アメリカ原産で、日本には明治時代に伝わったとされる。和名は秋桜 (アキザクラ)。花色は白・桃・紅色などで、夏前に咲く早咲き種などの園芸品種もある。花言葉は「乙女の真心」「美麗」。

○ 羊蹄山ステークス

羊蹄山 (ようていざん) は、北海道西部にある標高 1,898mの火山。円錐状をなし、その美しさから蝦夷富士 (えぞふじ) とも呼ばれ、日本百名山に数えられる。山頂には直径約 700mの火口があり、山麓はアスパラガス、ジャガイモの産地として有名。

○ 札幌道新スポーツ賞

道新スポーツは、北海道新聞 HotMedia が発行しているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ 石狩特別

石狩 (いしかり) は、石狩川河口にある北海道中西部の市。また、北海道にあった旧国名。現在の石狩振興局管内に相当する。サケなどの漁業が盛んで、サケの身やアラを用いた郷土料理である石狩鍋が有名。

○ UHB賞

UHB は、札幌市に本社を置く北海道文化放送の略称。昭和 47 年開局で、FNS (フジテレビ) 系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 藻岩山特別

藻岩山 (もいわやま) は、札幌市南区の山。標高 531m。山頂展望台からは、平成 27 年に日本新三大夜景に認定された札幌市を一望でき、360 度の大パノラマが広がっている。また、札幌競馬場の屋上テラス席「もいわテラス」から望むことができる。

<第3日>

○ 富良野特別

富良野（ふらの）は、北海道中央部の市。観光産業が盛んで、特にラベンダーが有名。夏には、見渡す限り一面のラベンダー畑を楽しむことができる。

○ 札幌日刊スポーツ杯

日刊スポーツは、日刊スポーツ新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同紙の北海道版を発行している、北海道日刊スポーツ新聞社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 千歳特別

千歳（ちとせ）は、北海道の中南部、石狩平野南端の市。市の中央部には新千歳空港が、西部には国立公園支笏湖がある。

<第4日>

○ クローバー賞

クローバー（Clover）は、ヨーロッパ原産のマメ科の一年草または多年草の総称。四つ葉のものは幸福のシンボルとされ、五つ葉は金銭の幸福を、六つ葉は地位・名声を手に入れる幸福を、七つ葉は最大の幸福を意味する。四つ葉の花言葉は「幸福」「私のものになって」。

○ 大通公園特別

大通公園（おおどおりこうえん）は、札幌市の中心部に位置する公園。「さっぽろ雪まつり」や「さっぽろ夏まつり」の会場として市民や観光客に親しまれている。

○ サマー2000シリーズ札幌記念（GⅡ）

全5戦で実施されるサマー2000シリーズの第4戦。

本競走は、昭和40年に創設された重賞競走。44年以降、3歳以上のダート2,000m、ハンデキャップ競走として実施されていたが、芝コースの新設により、平成2年から芝2,000mに変更された。9年にはGⅡへ格上げされ、札幌と函館の開催日割が入れ替わったことに伴い、実施時期が6月から8月に移され、負担重量が別定重量となった。18年には負担重量が定量に改められ、現在に至る。

○ 手稲山特別

手稲山（ていねやま）は、札幌市西区と手稲区との境にある山。標高1,023m。名は、アイヌ語の「テイネイ（ぬれているところ・湿地）」に由来する。山麓付近にはスキー場やゴルフ場などがあり、平地部は住宅地となっている。

<第5日>

○ ルスツ特別

ルスツ（留寿都）は、北海道南西部の村。名は、アイヌ語の「ル・スツ（道が山のふもとにある）」に由来する。遊園地・ゴルフ場・スキー場などを備えたルスツリゾートが有名。

○ 摩周湖特別

摩周湖（ましゅうこ）は、北海道東部、弟子屈（てしかが）町にあるカルデラ湖。周囲約20km、最大水深約212m。湖には流入する川も流出する川もない。日本で最も透明度が高いと言われ、北海道遺産に選定されている。霧の発生が多いことでも知られる。

○ オホーツクステークス

オホーツクは、北海道北東部、平成22年に網走支庁から改組された総合振興局。また、アジア大陸北東部・カムチャツカ半島・千島列島・北海道・樺太に囲まれている海。ニシン・サケ・マス・カニ・コンブなどの好漁場となっている。冬季はシベリア高気圧の影響を受けて氷結する。

○ ニセコ特別

ニセコは、北海道西部の地名。ニセコアンヌプリの南、羊蹄山の西側の地域を言う。世界でも有数のスキーリゾート地で、海外からも多くの観光客が訪れる。

<第6日>

○ 小樽特別

小樽（おたる）は、北海道西部石狩湾に臨む市。名は、アイヌ語の「オタオルナイ（砂浜の中の川）」に由来する。現在は、大正時代に完成した小樽運河やその両岸に並ぶ煉瓦の倉庫がレトロな雰囲気を出しており、多くの観光客が訪れる。

○ 苫小牧特別

苫小牧（とまこまい）は、北海道中南部の市。昭和23年（1948年）市制施行。石狩・勇払の低地帯が太平洋に臨む地にある。明治時代には製紙工場の操業開始を契機に工業都市として発展した。現在では港を中心として臨海工業地域を形成している。

○ サマースプリントシリーズキーンランドカップ（GⅢ）

全6戦で実施されるサマースプリントシリーズの第5戦。

本競走は、平成8年にオープン特別競走として創設され、競走条件や距離の変更を経て、18年よりGⅢに格付けされた重賞競走。

キーンランド競馬場は、アメリカ合衆国ケンタッキー州レキシントンにある競馬場で、周辺は馬産地として世界的に有名。同競馬場では競馬開催のほか、年数回サラブレッドのセリ市も行われている。27年には同競馬場史上初めてブリーダーズカップが開催された。

○ 支笏湖特別

支笏湖（しこつこ）は、北海道千歳市西部にあるカルデラ湖。最大水深は約360m。秋田県の田沢湖に次ぐ日本第2位の深度で、日本最北の不凍湖でもある。名は、アイヌ語の「シ・コツ（大きな窪地）」という千歳川の古名に由来する。支笏湖を源流とする千歳川の支流のひとつであるナイベツ川湧水は、日本の名水百選に選ばれている。

<第7日>

○ 札幌スポニチ賞

スポニチは、スポーツニッポン新聞社が発行しているスポーツ紙。スポーツニッポン新聞社は、東京と大阪に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 農林水産省賞典札幌2歳ステークス（GⅢ）

本競走は、『北海道3歳ステークス』の名称で昭和41年に創設された重賞競走。58年に『札幌3歳ステークス』に改称された。当初は、ダート1,200mの競走として実施されていたが、芝コースの新設により芝1,200mに変更され、平成9年には距離が1,800mに延伸された。

○ 日高ステークス

日高（ひだか）は、北海道の旧国名のひとつ。現在の日高振興局管内に相当する。国内有数の軽種馬生産地として世界的にも知られている。管内の浦河町には、JRAの競走馬育成調教施設である日高育成牧場があり、育成調教技術の普及に努めている。育成された競走馬は主にJRAブリーズアップセールで売却され、JRA育成馬としてデビューする。

<第8日>

○ すずらん賞

すずらんは、キジカクシ科の多年草。中部地方以北の本州や北海道に自生し、高さは15～25cm。初夏に花茎を伸ばし、白い釣鐘形の小花を総状につける。札幌市の花にも選ばれている。花言葉は「純粹」「幸運が戻ってくる」。

○ 丹頂ステークス

丹頂（タンチョウ）は、ツル目ツル科の鳥。「丹」は赤色を意味し、頭頂部が赤いことから丹頂と呼ばれており、北海道の道鳥に指定されている。一時は絶滅したとも思われたが、大正13年に釧路湿原で十数羽生存しているのが発見され、その後、国や自治体による保護活動が行われた結果、平成30年には約1,650羽の生息が確認されている。

○ 釧路湿原特別

釧路湿原（くしろしつげん）は、北海道東部、釧路市の北側に広がる約20,000haの面積を誇る日本最大級の湿原。昭和55年に日本初のラムサール条約登録湿地の指定を受けた。一帯が釧路湿原国立公園に指定されており、タンチョウ（丹頂）の生息地としても有名。